

【京都市町村教育委員会連合会会長賞】

「生まれ持ったもの」

京都府立福知山高等学校附属中学校2年

滝本 ゆかな



人それぞれ性質や見た目、考え方や好みが異なること。そんな意味を持つ四字熟語「十人十色」。今この言葉は肯定的に受け入れられている。私も、他の人と違うことを恥じることはないよと教わってきた。

私は、顔や体型はもちろんだが、他の人と大きく違うところがある。それは髪の毛の「色」である。生まれつき明るい茶色の髪をしている。以前、私は、自分の髪がコンプレックスだった。でもある人の言葉で自分の髪を素敵なものと思えるようになった。

「入学式の日、チャラって思ったわ。」

私が中学校に入学し数日経って言われた言葉だ。正直、またかと思った。「チャラそう」「遊んでそう」「怖そう」この3つの言葉は「私の印象は？」と聞いたときに絶対に言われる言葉である。小学校のクラス替えて、初めて同じクラスになった友達にも、「ゆかなちゃんって髪色明るいから怖そうだし夜遊びとかしてそうだよねえ」と言われたことがあった。小学4年生くらいまでは気にもとめなかったし、むしろ茶色の髪の方がかわいらしいと思っていた。しかし、茶髪であることが否定的なイメージにつながっていると思い、次第に自分の髪はコンプレックスになっていった。小学6年生の頃には黒檀の木のようにつやのある黒い髪をした女の子が理想になっていた。中学生になるまでに怖がられないように茶色の髪を黒い髪に変えようとした。インターネットで、「茶髪を黒髪に変える方法」を検索し、毎晩海藻を食べるようにした。中学生になってからも続けたが、私の髪は黒色になる気配すら感じさせなかった。

中学1年生の夏休み。私は黒色に染髪することを決めた。美容院に行ってスタイリングチェアに座った私は美容師さんに黒色に染髪してくださいと伝えた。美容師さんは不思議そうな顔をした。そして、「どうして？」

と私に尋ねた。私は、

「みんなにチャラそうって言われるこの茶色の髪を変えたいんです。」

と答えた。美容師さんは私が答えると笑顔でこう言った。

「人の髪も十人十色でそれぞれいいところあるし、茶色の髪きれいだから染めることおすすめできないなあ。」

私はその言葉をかけてもらって染髪するのをやめた。この先も染髪する気はない。美容師さんのおかげで私は自分の髪に自信が持てるようになった。コンプレックスではなく魅力だと考えられるようになった。「十人十色」は私の好きな言葉の一つだ。人はそれぞれ、生まれ持ったものがある。私は誰に何を言われようが髪色を変えるつもりはない。

昨年の秋に大阪府の女子高校生が髪が生まれつき茶色なのに学校側から黒く染めるよう強要されたというニュースを聞いた。私は怒りのあまり、言葉も出なかった。人はそれぞれ生まれ持つものが違う。肌の色、目の色、髪の色、全部違う。本来は生徒に教える側の「大人」はきっとそのことを理解できていなかったのだろう。人権学習で、「みんな違ってみんないい」とか「個性はすばらしい」と言っている大人も内心思っていないのかもしれない。きれい事だと思っている大人もいるのではないか。

生まれ持った髪の色を否定する社会なんて間違っている。髪の色一つでその人のイメージが決まってしまうなんておかしい。私はそう思う。髪の色で「チャラそう」「遊んでそう」「怖そう」と言われるのはすごく辛い。私のようにダブルやクォーターではなくても生まれつき黒髪ではない人たちが辛い思いをしない社会になってほしい。そんな社会になるのは五年後だろうか、それとも10年、20年後だろうか。未来では誰もが、自分の生まれ持ったものを胸を張って言えるように、他人の全てを認められるようになっていく。